

「喜び」をつなげる



左の男性、本年1月31日で49才になりました。
ついでに、右のイケメンS君に

「太田先生への誕生日プレゼントのお花、楽しみにしていますよ！」
太田先生自らが、要求していました（笑）

漢方相談のお客様に対して、自分の誕生日プレゼントを、“自分から”
お願いするとは・・・
なんという、厚かましさ！ 図々しさ！！ その自意識過剰さ！！！！

しかしS君は、そんなナルシスト漢方薬剤師にあきれることなく、
誕生日当日、素晴らしいお花を持って来てくれたのでした。



流木をアレンジした独創的作品に感謝感激・・・(涙)

Sくんは福岡のお花屋さんを退職して、今年実家の長崎に戻ってきました。
「自分の店を出す」という目標あつてのことでしたが、花屋という仕事への熱意はあるものの、「果たしてほんとうに長崎でやっていけるのか？」不安になり迷っていました。

そんな中、いきなりナルシスト漢方薬剤師に誕生日のお花を強要、いや、お願いされたSくんは「長崎で唯一、ここのお店はいいセンスしている」と思うお花屋さんに早速出かけて、材料を買い求めました。

すると・・・
そのお店の店長さんから「久しぶりだね！」声をかけられました。
およそ3年ぶりに出向いたにもかかわらず、覚えてもらっていたのです。
そして、な、なんと「うちのお店で働いてみない？」
ちょうど退職された人がいて、求人募集中だったのです。

その店長さんに、先々自分の店を持つ考えがあることを正直に告げると「地場のルートをしっかりと教えてあげるから、それでもいいよ」すべてを受け入れてくださったそうです。なんとというラッキーイケメン！
そしてSくんは今、そのお花屋さんで働いています。

それもこれもナルシスト漢方薬剤師が「誕生日プレゼントのお花、ちょうだい～～！」Sくんをお願いしていなければ、このタイミングでSくんと花屋さんの出会いはなかった。今でも進路に悩んでいたかもしれません。

3月4日は、私の妻の誕生日。

夫はSくんの働くお花屋さんに出向いて、妻への誕生日プレゼントを注文。
またまた素晴らしい作品を届けてくれました！ \ (^o^) /



日本人の美德の一つに「謙遜」がありますが、度を超すと「卑下」になります。
「我慢」も必要なことですが、自分の気持ちを偽って生きていくと、反動で
「怒り」「後悔」「恨みつらみ」が生じたりします。

もし、私が「Sくんの作品を見てみたい！」という自然に湧いてきた気持ち、
その時の直感を隠して、差し障りのない対応をしていたら・・・
今回のような「たくさんの喜び」は生まれなかったわけです。

これは勝手な想像ですが、私のその直感は
「Sくんとそのお花屋さんをつなげるためだった」のかもしれない。

プレゼントをもらった私だけではなく、そのお花屋さんもSくんという人物に
出会えてスタッフが充実した。私の妻へのプレゼントが、売上にもなった(笑)
お花屋さんも喜んだし、お花を届けてもらった妻も喜んだ。
そして何よりもSくんが、自分の店を持つ一歩として、長崎で頼りになる人脈
を持って喜んだ。その喜びが自信につながり、具現化していくことでしょう。

太田東西薬局のクソ真面目すぎるお客様～～(笑)

こんな太田先生を見習って、もっと「感じたままに」生きましょうよ。
恥ずかしいとか、ご迷惑だとか、相手に気を使い過ぎず、素直に感じたままに。
自分の喜びが、「みんなの喜び」につながるかもしれないのです。

ということで、来年の1月31日の誕生日は私の50周年記念ですから
たくさんのプレゼント、楽しみに待ってますよ～～～ \ (^o^) /

水曜日は“アウェーの日”

本年より「水曜日は定休日」とさせていただきました。
太田東西薬局での漢方相談は、待ちの姿勢で、いわゆる“ホーム”。

水曜日は待つのではなく、こちらから出向く、そちらに伺うという外回りの日
“アウェーの日”にすることに決めました。

入院しているお客様のお見舞い、在宅お客様への激励、遠方にいらっしゃる
通販のお客様への出張相談など本格的にやってまいります。

太田東西薬局はおかげさまで20年目を迎えました。それにもなって
私もお客様も、それだけ年をとりました・・・(笑)
新規お客様を増やすことに自分の時間とエネルギーを費やすのではなく、
これからは長年ご利用くださっているお客様一人一人に使っていきます。

「生老病死」は誰もが避けられません。老い・病気は漢方で予防できても
死は必ず訪れます。だから死を忌み嫌うのではなく、受け入れながら生きる。
肉体は老いても、心まで老いないように。現実をしっかりと見据える。
その瞬間を恐怖や後悔で迎えるのではなく、「満足」「感謝」で終える。
そのために私は、お客様のご自宅まで、ベッドサイドまで訪問します。

「家族が入院したんです、先生、元気を届けてください」
「家族が亡くなりそうです、先生、一目あってください」
「家族が亡くなりました、先生、葬儀に来てください」

どうぞ遠慮なくお知らせください。時間の許す限り、こちらから出向いて
ご家族の不安と恐怖を取り去り、「笑顔」「安心」をお届けいたします。

もちろん、「**無償の愛**」 三（無料）ですよ！（*´ `*）

